

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	みいる宮城野		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 13日		～ 2026年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19 (回答者数)	15
○従業者評価実施期間	2026年 2月 2日		～ 2026年 2月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3 (回答者数)	3
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 16日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	常勤スタッフが全員経験5年以上	当事業所では、5年以上の支援経験を有しており、これまでの経験を活かしながら子ども一人ひとりの特性や発達段階に応じた支援を行っています。スタッフ間でも日々の情報共有や振り返りを行い、安定した支援の提供に努めています。	常勤スタッフ全員が5年以上の支援経験を有しており、子ども一人ひとりの特性や発達段階に応じた支援を行っています。日々のミーティングや情報共有を通して、支援の質の均一化にも努めています。今後は、個々の経験に加え、支援の根拠をより明確にするための内部研修や事例検討を充実させ、事業所全体としての専門性の底上げを図っていきます。
2	専門性・専門的支援実施加算を算定	専門的な視点を活かした療育の提供を行うため、専門性の向上に努め、専門的支援実施加算を算定しています。子どもの発達特性や課題に応じて支援内容を検討し、より効果的な支援が行えるよう取り組んでいます。	支援内容についても職員間で共有し、統一した関わりを意識しています。今後は、外部研修への参加や専門職との連携を強化し、より専門性の高い支援の提供と、支援内容の見える化(保護者への説明力向上)に取り組んでいきます。
3	保護者の気持ちに寄り添う、こまめな連絡	保護者との信頼関係を大切に、送迎時の声掛けや面談などを通して日々の様子をこまめにお伝えしています。保護者の思いや不安にも寄り添いながら、安心して利用していただける環境づくりを心がけています。	送迎時の声掛けや面談等を通して、日々の様子を丁寧に共有し、保護者の思いや不安に寄り添った対応を心がけています。今後は、より保護者ニーズを把握するための定期的な面談やアンケートの活用を行い、支援内容や関わり方の改善につなげていきます。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動スペースが狭い	法人内の他事業所と比較すると活動スペースが限られていることが課題です。要因としては建物構造上の制約があります。	活動内容や人数に応じた空間の使い分けを行うとともに、公園活動や外出活動を取り入れ、子どもたちが十分に体を動かせる機会を確保できるよう努めています。今後は時間帯によるグループ分けや活動の分散化など、より安全かつ効果的に活動できる環境づくりを進めていきます。
2	災害リスク(海が近い)	海が近い立地であることから、津波等の災害リスクが想定される点が課題です。要因としては地理的条件によるものが大きいです。	今後は、地域との連携や保護者への情報共有を強化し、より実践的な防災体制の構築を進めていきます。避難経路の確認や定期的な避難訓練の実施などを通して、スタッフ、利用者の防災意識を高め、安全確保に努めています。
3	スタッフ数が少ない	スタッフ数が限られているため、一人ひとりの負担が大きくなりやすい点が課題です。要因としては、人材確保の難しさ等が挙げられます。	現状は、職員間での役割分担や連携を工夫しながら対応しています。今後は人材確保に加え、業務の効率化や支援の標準化を進め、少人数でも質の高い支援が維持できる体制づくりに取り組んでいきます。